



「隣人愛」に基づく SSH

すべての科学技術や人間の活動はキリスト教信仰の「隣人愛」に基づき、世界の人々環境に深く配慮されたものでなければならないと考えます。

今回は11月18日に行われたドイツ・フライブルク市の環境コーディネーターの前田成子先生によるドイツの環境政策についての特別講演会の様子を中心に、山梨読売科学賞を受賞したこと、Science in Englishの出前授業について報告します。

《第4回 SSH 特別講演会 11月18日》

講演テーマ 「環境都市フライブルクに40年」
フライブルク市環境コーディネーター 前田成子先生

11月18日、ドイツ フライブルクで環境コーディネーターをされている前田成子先生をお招きして「第4回 SSH 特別講演会」を開催しました。「環境都市フライブルクに40年」というタイトルで、環境を守りながら活性化を実現する行政の取り組みについてお話いただきました。フライブルクが山梨に似ているとはじめられた先生の講演に生徒たちは熱心に聞き入っていました。先生にはSSHⅡのドイツ研修で、フライブルクの街、ポーバン団地やフライアムト村などを訪れた際に、現地で説明、講義を受け大変お世話になりました。40年にわたり、ドイツに在住しながらフライブルクの環境政策を日本に紹介しておられる先生が「様々な国の文化や考え方を尊重し、日本人らしさを失わず、広い視野をもって他の国の文化も経験してほしい」とおっしゃる姿は、生徒たちにとってグローバルに活躍する女性像として見本となったようです。

事前事後アンケート結果においても、もともと数値の高かった設問5を除き、1%水準で有意に上昇し、環境問題に対する関心の高まりがみられました。

【生徒の感想】

・フライブルクが山梨に似ているということで親近感がわきました。フライブルク市のように駐車場と公共交通機関のあり方を考えることによって、山梨や日本の過疎化地域に足を運ぶ人が増え、活性化につながるのではないかと思います。

・フライブルクの人たちは、自分たちが住んでいる街の美しい自然を守るため、環境問題について考え、様々な取り組みをしていることがわかりました。私たちが住んでいる山梨の、この自然環境を守るために、私に出来るのが何かを考え、身近な問題から取り組んでいきたいと思いました。

・「環境問題」と聞くと、「水質汚染」「大気汚染」などをイメージしていましたが、自分たちの身の回りすべてが環境だから、自然に関する問題だけではなく、都市計画や女性の問題なども含まれるという考え方に感銘を受けました。

・新しいものばかりを取り入れて社会を変えるのではなく、既存のものを活用し、すべての人にとって満足できる町をつくるという発想の大切さを感じる講演でした。

・40年にわたり日本とドイツの架け橋になっていると聞き、カッコいいなと憧れを抱きました。先生のようになれるまでには多くの努力が必要であり、大変な道のりだと思いますが、人のため、環境のために働ける女性になりたいと思います。

On the Way to a Sustainable City
Environmental Policy in Freiburg i. Br.

Dr. Dieter Wüster
Director of the Environmental Protection Agency
City of Freiburg - Germany



Leaves watching slippers tonight before 11:00pm (12/18/16)



フライブルク市

人口 220,000人
面積 150 km²
森林面積 約40%
自然景観保護面積 50%

フライブルク市のエネルギー政策



ポーバン団地のしくみ (フランス軍基地跡地)

- ・総人口 5000人
- ・経エネ発生基準 (バツグンハウスも数年あり)
- ・木材建材バイオマスの地産地消
- ・ソーラーエネルギー設備
- ・市電導入
- ・カーフリー地域 (万レージ域敷設)

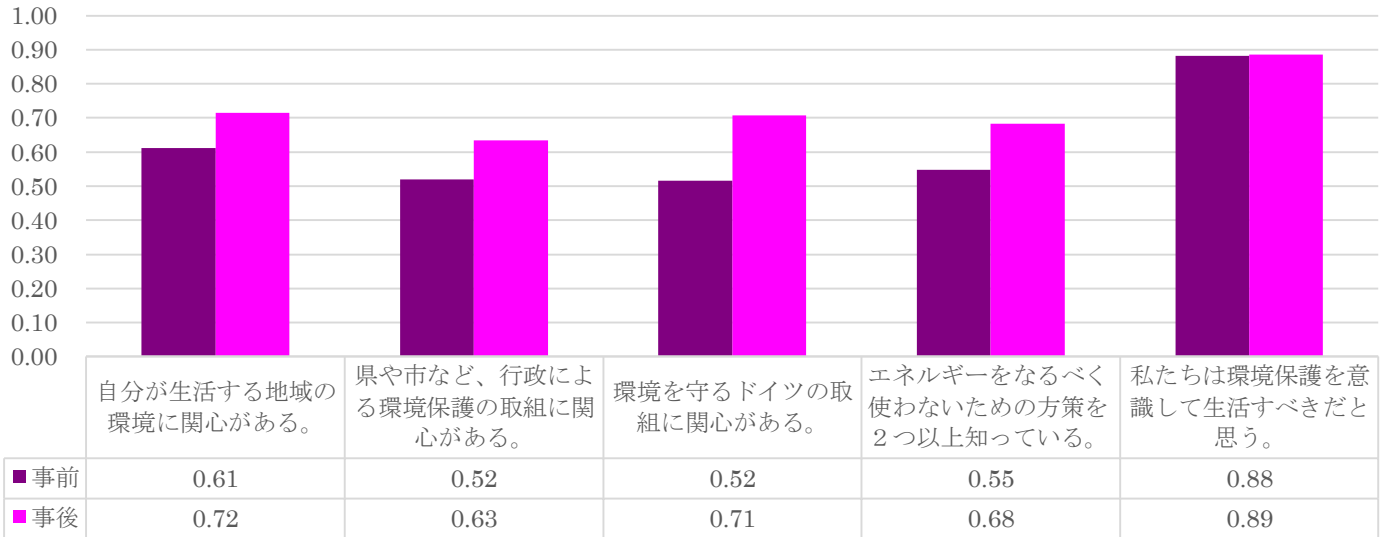


Renewable energies: Wind energy

Long controversial planning process.
Deflection in the spatial development plan
5 wind mills in total in an city area
Current production 14 million kWh/a.
Planning authority now with the regional council



第3回SSH特別講演会事前・事後アンケート結果



《読売新聞社賞を受賞しました》

本年度読売科学賞の山梨予選大会が山梨県立科学館で行われました。5つのSSH指定校（韮崎、巨摩、山梨英和、甲府南、都留）から35作品が出展されました。本校から7点（物理2 化学2 生物3）を出品しました。そのうち「ササラダニ類の富士山多様性評価」が読売新聞社賞を受賞し、大変な努力が認められるという評価を頂きました。

《Science in English で出前授業が行われました》

9月10日、Science in English IIにて「Radiation Education Seminar for Promoting Scientific Understanding」（科学的な理解をすすめる放射線教育セミナー）が実施されました。

講師は「一般社団法人 エネルギー・環境理科教育推進研究所」代表理事・中村日出夫先生と専門研究員・赤坂光博先生、大阪府堺市立桃山台小学校校長（前大阪府中学校理科教育研究会会長）・富岡 俊彦先生でした。

授業は、初めに放射線に関する説明（放射線とは？放射線の種類「α線・β線・γ線」、放射性物質・放射能・放射線の違い、放射線による被ばく、福島第一原子力発電所の事故、放射線の健康影響、放射線の利用など）が行われ、そのあと霧箱という装置を使って放射線の飛跡を観察、「はかるくん」（放射線計測器）を使っての計測実験・線源までの距離との関係、遮蔽実験を行いました。授業は全て英語で行われました。生徒たちは初めて見る実験に興味を示すとともに、害にも益にもなる放射線との上手な付き合い方について学びました。



次号では本校出身のマテー ラウラ先生による第5回SSH特別講演会とサイエンス女子カフェについてご報告します

